

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500324		
法人名	社会福祉法人 陽和福祉会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所どんぐりの森		
所在地	愛知県春日井市高森台5丁目6番地1		
自己評価作成日	平成26年12月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に力を入れており、材料を買うところからすべて自分たちでやっている。利用者に食べたいものも聞きながら作っているので満足して頂けると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は地域に根付いた医療法人であり、近隣の県有地有効活用の一環として、地域での介護・医療連携による在宅での生活支援を目的とする社会福祉法人を設立して、地域密着型特養・グループホームを併設して、開設9か月が経過した。設立間もなく施設長が他界し、職員一同を激震が見舞ったが今はやっと落ち着き、幹部も日ごろの介護を振り返る余裕が出てきた。運営推進会議では自治会長・老人クラブ・民生委員から活発に提案もあり、施設運営の貴重なサポーターとなっている。施設長は「地域介護の拠点をめざし、訪問看護もスタートさせ、ますます介護・医療連携を発展させる」「地域の人を最後までお世話する施設でありたい」と展望を語る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に つなげている	外出行事を取り入れ、地域のイベントや行事に 参加するようにしている。	「医療と介護の連携」と「在宅支援をめざし地域福祉の推進に 努めます」を理念として掲げ、訪問・通い・宿泊で得られた情 報を共有し、地域のニーズに合った在宅での生活を支えている。 訪問看護開設準備中であり、訪問看護との連携でいずれ は在宅での看取りまでも視野に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流し ている	普段の買い物は、出来る限り近隣のスーパー を利用し、地域とのつながりをつくっている。	季刊誌「どんぐり広場」を発行し地域に回覧していただい ており、希望者にはデータでの送信もしている。多目的ホールを 地域に開放しておりボランティア活動や、地域高校の同級生 による講習会『おやじクラブ』の予習会で活用されている。ま た、喫茶室も地域住民に自由に使用していただけるよう開放 している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かし ている	現段階では、まだそのようなところまでは、いっ ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価 への取り組み状況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方の意見や施設での状況話し合い、 サービスの向上に努めている。	併設のグループホーム・地域密着型特養の家族、自治会長・ 老人会長・民生委員・地域包括職員・市職員・病院職員・ケ スワーカー・施設職員をメンバーとし、3施設合同で奇数月に 開催している。地域代表は自治会・町内会の連絡会長の経 験者で、地域特性を踏まえた様々な提案をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの場を活かし、情報の共有 を図っている。	行政も参画した地域住民の会合にブース出展し施設の紹介 を行った。運営推進会議では「地域で介護の講習会を」と望 む声に対し、地域包括主催の講習会紹介をした。定期的な行 政との連絡を企画している。	行政との定期的な交流の必要性を施設長も 感じており、次期の取り組みとして期待した い。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、 玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組 んでいる	利用者の意見を尊重し、限りなく自由な状況 をつくっている。	利用者はすべて自立であり、拘束の対象者はいない。在宅で も拘束を望む家族の声もなく、施設出入り口の移動も、施錠も なく自由が確保されている。訪問時も思い思いの場所でくつ ろぎ、塗り絵に没頭する利用者の姿が確認された。スピーチ ロックもなく利用者の話に傾聴する職員の姿が確認された。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について 学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努 めている	常にそのような事には気を付けて、注意を払っ ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだそのような段階までには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず説明を行い、分らない点に関しては、いつでも相談・連絡できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望があった際には、早急に対応している。ご意見箱を玄関付近に設置している。	「事情があり通いができないが、通いを利用したい」との家族の声に、まず訪問で弁当を手配・持参し、服薬確認・寝室清掃の組み合わせでサービス提供し、なじみの関係を築いて、今では通いまで支援している利用者が確認された。	家族会開催を、3施設共同の次期目標としている。その開催に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談しやすい環境を整えている。職員とは、連絡を密にとっている。	今はまだ登録人数も少ないので、職員の気づきはその場でリーダーに報告され、解決できるものはその場で、さらに検討を要するものは施設長に上申され、ほとんどその場で解決している。訪問・宿泊・通いで気づきは提供記録に記載され、職員で情報共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、状況を把握しており、その都度対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	災害対策や勉強会などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流により、色々な意見をもらい、より良いサービスの提供を計っている。勉強会にも参加させてもらっている。		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、訪問サービスを中心に行い、職員に慣れてもらおうところから入り、本人からの安心感、関係づくりに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望があった際には、本人に説明し、同意を得たうえで変更していけるように時間をかけながら行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接した際、困っている事や出来ない事を把握している。そして困っていることを最優先に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を大切にして、コミュニケーションを多くとることでお互いが学びあえる環境になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	送迎で家族と会う際には、現在の状況をお話し、情報を共有することでお互いの関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係がある方との連絡が途切れないように、こちらからも連絡を取るようになっている。	在宅での生活を支えるキーマンはアセスメントで把握され、訪問サービスでも重視している。現役時代の名残でホームセンターへ行きたがる利用者は、通いの帰り道でホームセンターにより、ウインドウショッピングを楽しんでいる。併設特養に入居している配偶者の面会のついでに通いを利用する人も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなか耳が遠く、本人同士ではコミュニケーションが取りにくい為、職員が間に入ってコミュニケーションをとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度だけ、契約後ご本人に連絡を取り、お礼と経過状況を確認した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今は一人一人のニーズに応え、対応している。	利用者はすべて自立で、自分の意思ははっきり口に出せる方ばかりなので、職員も「何食べたい?」「どこに行きたい?」と積極的に問いかけている。「昔は自分で行けたけど、いまは初詣に行けなくなった」との声に、外出支援で初詣に出かけた。「パスタが食べたい」という利用者の声にこたえ、訪問時は「ミートソースパスタ」が提供されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を知ったうえで、今までの生活パターンが変わらないようなサービス提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今でも利用者の状況把握に努めている。 利用者の変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、スタッフ同士が意見を出し合い、より良い生活を目指している。	今は利用者が少ないので、変化があれば直ちにリーダーに相談し、その場で介護手技の変更、プラン見直しがされている。「情報提供表」に家族との連絡欄があり、それをコピーして、「連絡帳」にしている。家族はその日受けたサービスが一目で、職員も前回利用時の家族の要望・気づき・状況が明確に把握できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間では、申し送りノートを作り情報を共有している。その際、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問の予定になっていても利用者の状況を見ながら通いに変更するなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在、構築中である。訪問サービス利用者宅の近くにある小売業者へ挨拶し、協力が行えるように交流する計画をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族と状況をみながら受診を行っている。	小規模多機能型の事業所なのでかかりつけ医や主治医の変更は無い。訪問時や通いで事業所に来所時でも、現在受診はスタッフが同行している。将来、利用者が増えた場合には、現在と同様のケアやサービスが出来なくなる可能性が高いことは、入居時には説明し、都度都度にも理解を得られるように説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことや変化があったことについては、他職種との連携や相談により対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	未だその状況には至っていない。 病院関係者との関係づくりは日頃から心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だその状況には至っていない。 しかし、その場合は御家族・ご本人から話をしっかり聞いて対応していきたい。	小規模多機能型の為入居時にはターミナルケアの話は、現在はお話はしていないが、将来は、小規模多機能型としての対応でやりたいとの思いはある。在宅でのみとりをと、考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを作成したり、定期的な訓練・勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	先日、防災訓練を近くの消防署に依頼し行った。	開所間もなくの9月、施設全体合同で昼間を想定して消防署に依頼し、利用者も参加して防災訓練を行っている。AEDを設置し、AEDの講習を消防署の職員にしてもらった。非常時用の職員の連絡網も作成している。備蓄は水、非常食、ペットボトル、乾麺、缶詰などである。高台に建設されているので水害の心配はしていない。	

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であることを頭におき、丁寧な言葉がけを行っている。プライバシーについても職員に徹底している。	入居者が少ないのと、自立している利用者なので見守りに対応している。慣れてしまわないように、担当者をたまに変えて利用者からもれる、つぶやきも見逃さないように気を付けている。「さん」で呼び掛けるように指導している。利用者の持ち物に触る時や靴を開ける時、泊りの部屋に入室の時など、声掛けをするように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を大切にしており、日中もやりたいことをやってもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、本人に決めてもらう事を大切にしている。現在は人数が少ない為、行いやずい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切にしており、その人の選択を尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日食べたい物を聞いて作るようにしたら位、ボリュームがある料理を好む利用者に対しては豆腐を取り入れて満足して頂けるよう健康面からも留意している。	メニューは作成せず、利用者から食べたいものを聞いてスタッフが調理している。買い出しは通いの利用者を送った帰りに道に買い物をしている。秋には庭にでて、たこ焼きや、さんま、鉄板焼き、焼きそばなどを他の施設の入居者も一緒にバーベキューなど、食事を楽しめるように支援している。スタッフのなかに調理師が二人いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と利用者方の様々な意見により献立を決め、栄養バランスの良い食事になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを日課にしており現在いる利用者方は自らケアを行ってくれるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、オムツやリハパンを使用している利用者はおらず、トイレ誘導のみで対応している。自分で排泄できるようにトイレの近くに籍を配置している等の考慮をしている。	全員自立であるため、見守りが大事である。扉を開けたり、そっと付き添ったり見守りの中で対応している。全員、耳が遠く一人ひとり声掛けは大事である。自立の利用者である為失敗はほとんどないが、一人の利用者には介助は必要である。声掛けはチェック表等はなく適当に声掛けしているのが現状である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューに食物繊維の多い食べ物を取り入れたり、乳製品を使用したりと便通を良くしようと工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日等は決めず、早く入浴したい利用者は、早めに入浴してもらっている。	入浴は自宅ではなく、通いで事業所でお願している。怪我を少なくするための配慮である。個浴なので、使用ごとに沸かしていたが、続けて入浴されるようになったので、現在は増し湯で対応している。女性は午後に入浴される方が多く、同性介助で対応している。男性は午前の希望が多い。入浴したい時間に入っていただけるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り自宅に近い環境にするため、ご本人の使いやすい物や自宅で使っているものを持ってきてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や飲んでいる薬の把握は出来ているように思えるが、副作用の可能性については把握し切れていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみを作る為、職員も色々な案を出したり、外出行事を行ったり作業を通してこにゆにけーションを取るなど対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では、寒くなってきたのであまり外出できていないが、天気が良い日には外出をしている。	自立の利用者のみであり登録者も少ないので、送迎時にドライブ気分を感じてもらえるように、遠回りするなどして外出支援にかえている。現在は冬であり散歩は控えめであるが、秋には近所の神社に紅葉狩りかねてお参りに行ったりしている。春には花見を計画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事を行ったとき、買い物の楽しさを思い出してもらうために行っている。 自分で支払う楽しさももってもらおうよう行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在そのような事は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の家具の一部は、利用者と共に作成し、家具に対して愛着を抱いてもらうように配慮している。	利用者がくつろぐ空間は、床暖房でちょっとした段差があるためスタッフが削ったりしてバリアフリーになるように配慮している。エレクtoon、カラオケ、テレビや5.1チャンネルは映画が迫力満点でみられる装置が置かれている。家具は利用者の一人が元大工であることもあって手伝ってもらいながら作成した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で疲れた時は個々で休んでもらう等利用者一人一人にきわだったサービスの提供が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ってきてもらい自宅と同じように過ごせるように工夫している。	泊りの利用者は6室に対して3人である為、居室は固定の状態にあり、ドアには名札が貼られている。お気に入りの椅子を持ち込み精神が安定したこともあり、家族には今だけと念を押している。利用者が増えれば泊りの日数も思い通りにはならないことも説明し、理解を得るようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「自分で出来る事は自分でして頂く」という事を念頭に置いて行っている。		